

令和6年度第1回総合教育会議議事録

日 時 令和6年7月18日(木)
午後3時から午後4時10分まで
場 所 国分寺市立教育センター2階 203・204号室

会議の出席者

(構成員)

市長	井澤邦夫
教育長	古屋真宏
教育委員会教育長職務代理者	大木桃代
教育委員会委員	辻 亜希子
教育委員会委員	藤井健志
教育委員会委員	武内 彰

(説明員)

教育部長	日高久善
政策部長	沢柳和彦
総務部長	宮本 学
市民生活部長	杉本守啓
政策経営課長	渡邊浩典
市政戦略室長	村越隆治
防災安全課長	木村達郎
文化振興課長	鈴木淳司
スポーツ振興課長	岡田周作
教育総務課長	廣瀬喜朗
学務課長	村上 航
学校指導課長	高橋美香
学校教育担当課長	關 友矩
社会教育課長	諸橋広光
ふるさと文化財課長	新出尚三
市史編さん室長	依田亮一
公民館課長兼本多公民館長	本多美子
図書館課長兼本多図書館長	有賀真由美
第一小学校校長	出町 桜一郎

(事務局)

政策経営課職員(2人)

教育総務課職員(3人)

傍聴人 1人

1 開会

市長 こんにちは、市長の井澤です。本日は大変お忙しい中、令和6年度第1回総合教育会議に御出席を賜り、誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、令和6年度第1回総合教育会議を開催します。

2 協議・調整事項

(1) 国分寺学と市制施行60周年について

市長 それでは次第に従いまして、会議を進行します。

本日の協議・調整事項は、まず、国分寺学と市制施行60周年について協議いたします。

国分寺市では本年11月に市制施行60年を迎えるに当たり、今年度から、人と学びが循環するまちを目指す「国分寺学」を本格的に実施しています。国分寺学は「地域に親しみ、地域に学び、地域を考え、地域に貢献する国分寺学」をキャッチフレーズに、地域の自然環境や史跡、地域人材などを活用して取り組む学習です。次代の国分寺市を担う子どもたちが、市民の方々の地域に対する思いを受け止め、主体的に地域と関わり、地域に根差した探求的な学習を進めることで、学びの循環をつくり出すという、大変大きな役割があると考えています。特に今年度は市制施行60周年の節目の年であり、それにちなんだ学びの機会の提供が期待されています。

以上のことを踏まえ、本日の総合教育会議では、この節目の年以降も国分寺学の実施を通じて、市内の学びの循環を確実に作り出すことができるよう、国分寺学と市制施行60周年を節目とした国分寺市と教育委員会の連携などについて協議いただきたいと思います。

それではテーマに関連する資料の説明に移ります。

まずは国分寺学について、学校教育担当課長から説明をお願いします。

学校教育担当課長 資料1-1、国分寺学リーフレットを御覧ください。令和4年度に国分寺学推進委員会を立ち上げ、国分寺学の完全実施に向け準備を進めてまいりました。今年度から市内全小・中学校で国分寺学をスタートさせています。

2ページ、創出の背景を御覧ください。第2次国分寺市教育ビジョンでは目指すまちの姿を「人と人とがつながり、学びが循環するまち」としてはいますが、地域に学ぶ活動や授業を進めるに当たり、担当者の知識や経験などが異なることにより、学習内容や地域人材とのつながりがスムーズに引き継がれないケースもありました。また、近年はコロナ禍の影響もあり、地域とのつながりを持ちづらい時期も続きました。そこで子どもたちが地域に親しみ、地域に学び、地域を考え、国分寺市の市民として地域に貢献できるような資質・能力を育むために、これまでの地域素材を活用した授業実践や、小中連携教育の取組を充実・発展させた国分寺学を創出することとしました。本リーフレットには国分寺学の学びとして、3ページと4ページに小学校と中学校の例をそれぞれ掲載しています。

続いて、資料1-1の2番目、3番目の資料を御覧ください。今年度の市内小・中学校の国分寺学の年間指導計画をお示ししています。御覧いただいているとおり、各学年の各教科等で国分寺学として学習を進めています。

続いて、資料1-1の4番目を御覧ください。「60（ろくまる）ショート！！動画フェスタ」です。今年度は市制施行60周年ということで、国分寺学と関連させて市制施行60周年記念として、国分寺学の推進と「60（ろくまる）ショート！！動画フェスタ」という

イベントを実施します。各校で国分寺市の魅力を発信することを主点として、ショート動画を作成し、他校の動画も子どもたちが視聴してコメントし合うことで、60周年の機運を醸成することはもちろん、ふるさと国分寺への理解を深め、愛着を育むことを目的として実施をしています。

学校指導課からの説明は以上です。

市長 国分寺学の概要や取組について説明がありました。

それでは小学校における具体的な取組について、校長会会長である第一小学校の出町校長から説明をお願いします。

第一小学校校長 学校での国分寺学及び市制施行60周年についての取組を大きく4点、報告します。

1点目は『こくベジの歌』についてです。まずはこちらの動画を御覧ください。

(動画 視聴)

第一小学校校長 この動画は本校で作成した『こくベジの歌』の動画をまとめたものです。5、6年生から構成される給食委員会の児童が、制作班、そして作曲班に分かれて、国分寺市のよさを全校児童に伝えるために作成したものです。現在は給食配膳時に毎日曲を流しております。子どもたちに浸透して、口ずさむ子もいるほどです。先日は、民生児童委員から市内店舗等での活用をしていきたいという申し出もありました。

2点目は6年生児童による「国分寺しあわせタオル」の製作販売です。昨年度の6年生が国分寺市のよさを発信する方法の1つとして取り組みました。実行委員会を中心に国分寺市のよさを伝える図案を考案し、手紙を添えて国分寺まつりで販売しました。校内販売も含めて約500枚のタオルを販売しました。今年度の6年生も国分寺まつりにて新たな図案のタオルを販売する予定です。そのほか、近隣農家の協力による学校公開でのサツマイモの販売体験、そして里山の会による里山体験、野川源流スクールなどに取り組んでいます。

3点目は「60（ろくまる）ショート！！動画」の作成です。昨年度の5年生はマンホールデザインに取り組みましたが、今年度は「60（ろくまる）ショート！！動画」の作成に取り組みます。先日のコミュニティ・スクール協議会の話題として、10月に開催される、もとまち公民館での「ふれあいまつり・もとまち」にて、「60（ろくまる）ショート！！動画」と「国分寺しあわせタオル」の取組について、子どもたちが発表するのはどうかという話が出ています。現在、実現に向けて前向きな調整を行っています。

最後4点目は教員の研修です。本校は市教育委員会の研究協力校として、来年度に向けて国分寺学を通して課題解決する児童の育成を図っています。国分寺市立学校の教員といえども、住居は他地区にあり、駅と学校の往復しか知らない教員も多くいます。そこで、今年度は教員の研修の一環として史跡周辺のフィールドワークを行い、教員自身が国分寺市の歴史と文化、未来に対する理解を深め、非常に好評を得ました。教員全員が同じ風景をイメージする中で、今後の国分寺学を推進する基礎が養われたと感じています。

第一小学校は幸いなことに、史跡等に歩いて行ける距離にあります。市内の多くの先生方にも国分寺市のよさを体感していただき、子どもたちへの指導に生かすとともに、例えば新規採用者や異動転入者が、市内の史跡または国分寺崖線、畑などを巡る機会を設定するなどして、国分寺市に対する認識を高めるのも1つの方法と感じています。

このような取組をそれぞれの学校の地域性または児童・生徒の実態に応じて、推進しています。

市長 それでは国分寺市の史跡や市史を踏まえた取組について、ふるさと文化財課長と市史編さん室長から説明をお願いします。

ふるさと文化財課長 資料 No. 1－2 の武蔵国分寺跡の校外学習と子ども市史について報告します。ふるさと文化財課からは校外学習について説明します。

国分寺市に住んでいることの誇りと郷土愛を持つきっかけとなるように、市立小学校では、第6学年時に校外学習として、全校の児童が史跡地を訪れ、生きた教材である文化財に直接触れるとともに、学芸員の解説により歴史的理解を深めています。教員とは事前にチェックシートを基に「指導計画」や「授業のねらい」を確認し、校外学習がどのように実施できるか打ち合わせを行っています。当日はより効果的に視察ができるように、なるべく少人数でグループ分けをして、学芸員が中心となり、解説を行っています。行程の中で視察のポイントは、資料に写真等を載せていますが、各ポイントで説明を行い、約2時間から2時間半のコースで視察を行っています。子どもたちがどれだけ関心を持って史跡地に来ているかというのは学校の授業の進捗にもよりますが、直近で奈良時代や平安時代を学んだ後の子どもは、授業と結びつけて熱心に解説を聞いています。

資料3ページを御覧ください。令和4年度より実施している史跡地の整備工事ですが、本年度は一連の工事の中心となる参道部分の整備工事を行います。特に南側の入口となるエントランス部分には大型立体地形模型を置く予定で、今後の校外学習で児童が訪れる際は、この模型も活用して史跡地の広がり、崖線との高低差を体感し、武蔵国分寺跡がなぜこの地につくられたかなど、理解を深めてもらえるものと考えています。

ふるさと文化財課からの説明は以上です。

市史編さん室長 市史編さん室からは項番2、子ども市史発行に向けての取組について、説明します。

本年2月に決定した国分寺市史編さん基本方針には、編集活動の具体的な考え方として、小・中学生が地域の歴史を学ぶきっかけとなる子ども市史を編さんすることや、学校指導課と連携して、市内小学校3年生の社会科副読本で、令和8年度に改訂版の発行を予定している『わたしたちの国分寺』に市史編さんの成果を反映することをうたっていて、今年度、5月14日と6月28日の2回開催した社会科副読本作成委員会で、市史編さん室の職員が小学校の教員と一緒に検討を進めています。

先ほど、ふるさと文化財課から項番1、武蔵国分寺跡の校外学習について報告がありました。市内全校の小学6年生が史跡地、武蔵国分寺跡資料館を訪れ、生きた教材である文化財に直接触れ合う機会というのは、国分寺市ならではの取組といえます。最近、ふるさと文化財課及び国分寺市遺跡調査会では、様々な文化財を3Dデータとして記録化する取組を始めており、一部はスマホで、資料にある二次元コードをかざしてアクセスすると、その3Dデータを誰もが手軽に見ることができるような仕掛けをつくっています。

その一例として、東京都指定文化財である武蔵国分寺出土の銅造観世音菩薩立像を資料にお示しましたが、普段は展示ケース、ガラスケース越しにしか見学できない仏像を、様々な大きさや角度から観察できるようになりました。こうした素材を学校教育の中で生かす取組が、例えば岐阜県の飛騨市などでは実践されているようですが、先ほどの二次元コードを文化財の解説文につけ加えるような形で副読本にも取り入れ、子どもたちが様々な文化財をいろいろな角度から観察することによって、ものを見る力が養えるのではないかと考えています。

また、ひとつの取組として、(2) 市制施行60周年記念・市史編さん着手記念歴史講演

会を2回開催します。今年12月7日には、NHK「日本人のお名前」に出演されていた森岡浩さんに苗字を切り口にした歴史のお話をさせていただきます。また、令和7年1月13日には、同じくNHKの「チョコちゃんに叱られる！」に度々出演されている民俗学が専門の新谷尚紀さんに、信仰をテーマにした歴史の話をしていただきます。地域の歴史への関心が高い第3次国分寺市教育ビジョンアンケートの結果を踏まえ、こうした著名な研究者の方をお招きして、中学・高校生の親子参加を促す歴史学習の機会を創出していきたいと思っています。

市史編さん室からの説明は以上です。

市長 教育委員会からの説明で一区切りし、教育委員の皆様にご意見、御質問をいただきたいと思っております。

先ほど会議開始前に、二次元コードを読み取って、実際に3D画像を見ていただきましたが、それを踏まえて、御意見を賜ればと思います。

大木教育長職務代理者 出町校長にお伺いします。今回、たくさん実践をしていただいておりますが、その際の子どもたちの反応や、このイベントがあったときだけでなく、その後の国分寺市に対する思いなどに何か変化がありましたでしょうか。

第一小学校校長 子どもたちは国分寺学という形で身近にある教材、人に触れ合うことで、国分寺市のよさを再認識しているのではないかと思います。いつもの通学路に、視点を変えると大変いいものがあるという発見が広がっていると非常に感じています。

また、タオルの作成などを通して、国分寺まつりで販売した際にたくさんの方から声をかけていただいて、いろいろな交流ができました。たまたま、青年会議所の隣のブースだったのですが、非常にバックアップしていただいて、通行人に「子どもたちが作って売っているの、皆さん買って下さい」と声をかけてくれたり、向かい側が郵便局のブースだったのですが、郵便局の方々が「子どもたちがつくっているの、買って下さい」と声をかけてくれたり、子どもたちは応援してもらって非常にうれしいので、より人が好きになるし、国分寺市が良いと改めて感じたのではないかと感じます。

大木教育長職務代理者 ただ単に学校で何か調べたり学ぶだけでなく、実際の場で地域の方々と触れ合い、地域の魅力を感じることができたというのは大変ありがたいことだと思っております。

続いて、保護者の反応はいかがでしたでしょうか。

第一小学校校長 保護者の方は非常に協力的で、例えば4年生のサツマイモの収穫では、学校公開日にサツマイモの販売をしていますが、4年生だけではなく、他の学年の保護者の方も買えるので、子どもたちが一生懸命頑張っていて、すぐ売り切れてしまうぐらいの応援をしてくれています。タオルの販売は土曜日、日曜日、休日に行うので、なかなか関わるのが難しい児童もいるのですが、そういうときには保護者が「タオルを運ぶのに車を出してあげようか」とか、学校と子どもを通して、保護者もつながりができたと非常にいい反応をいただいております。

大木教育長職務代理者 保護者も国分寺市民ですので、このような学校での取組を通して、まさに先ほどの学びの循環あるいは人の循環に、保護者もぜひ参加いただけるような形であると、国分寺学もより発展していくのかと思っております。

最後の質問ですが、今回実践する上で、難しかった点や困った点などがありましたら、お聞かせください。

第一小学校校長 特に難しかった点はないのですが、どうしても活動が土曜日や日曜日

になりますと、例えばケガや事故があったときの子どもたちのことが一番心配です。国分寺まつりに関しては、国分寺まつり実行委員会でしっかりと保険にも入れていただいています。これからいろいろな活動をする中で、もし、何かあったときには、どういう対応をすればいいのかも含めてしっかりと考えていくことが、非常に大事だと考えています。

大木教育長職務代理者 ぜひこれからも実践を進めていただければと思います。ありがとうございました。

武内委員 出町校長に質問があります。大変すばらしい実践をされていることや、地域とつながって交流に発展しているところもすばらしいと思うのですが、それぞれの地域、児童の実態に応じて内容をつくられているということですが、学校の中で創意工夫して、その中身はどういったものを取り上げていくのか、つくっていく上での苦労があるのではないかと思うのですが、どのように上手に回されているのか教えてください。

第一小学校校長 学校だけではなかなか新たな開拓は難しいので、一小で言えば、コミュニティ・スクール協議会の委員の方で地域に非常に精通している方がいまして、そういった方に相談をしながら進めていきます。また、保護者の中にも、何年も国分寺市に住んでいる方もいますので、そういった方に相談しています。また、地域の朝の見守り活動をされている方は、自分のお子さんが小学生のときからずっと続けている方々がいまして、地域のこともよくわかっていますので、そういった方に相談したりしています。また、もとまちの地域会議に行きますと、各自治会の会長が出席されていますので、そういった方にいろいろ情報をいただいたり、または協力を仰いだりして進めているのが現状です。

辻委員 この「60（ろくまる）ショート！！動画フェスタ」は1人1台端末で子どもたちが取り組むと思ったのですが、このようなものを子どもたちがつくって発信できるということは本当に時代の波に乗っていて、すばらしい力を身につけていると思いました。資料では、「つくる」「のせる」「みる」「つながる」とあるのですが、そもそも私でしたら「つくる」がもうできずに、そこでつまづいてしまって、「みる」しかしていないのですが、今の子どもたちは受け取るだけではなく、情報を自分たちで、自分たちの地域のことを発信する機会を持てるようになったことはすばらしいと思いました。

また、ふるさと文化財課の説明にあった、展示されている仏像を実際に3D画像で見られるというのも、子どもたちが授業中や家庭で、1人1台端末で見ることができると思いますので、これも端末の活用方法としてとてもいいことだと思います。

これまで、一人ひとりが自分のペースで問題を解く、何かターゲットにつなげて情報を得るなどといった使い方しか思いつかなかったのですが、現場ではもっと進んで情報発信するとか、より深く知るように活用されていて、1人1台端末との連携の仕方がすばらしいと思いましたので、ぜひこれからもいろいろ研究をされていくといいと思っています。

藤井委員 先生に限らず、現場にいる方で、国分寺学という形で地域愛や地域貢献と銘を打つと、どうしても反作用のようなものも出てくる場合があると思います。そのようなものを現場で特に感じられることがもしあるようであれば、事例をお聞かせいただきたいというのが1点目です。

もう1点は、市史編さん室長も含めてですが、新しいチャレンジをされているお仕事、国分寺学を現場で実践する先生方にしても、市史編さん、特に子ども市史編さんなど、新しいものに取り組むに当たって、先ほどほかの教育委員の方々とも話ししていたのですが、「このようにしてほしい」と教育委員会から何か指示があるよりは、もしかしたら、新しい試みというのは、ケースバイケースに合わせながら現場の先生方にそれぞれのスタイル

でチャレンジしていただいて、その成功したケース、成功例などを吸い上げながら、徐々に形になっていくというのが望ましいのかと話をしていたのですが、そういった点で、もっとこのような意見を教育委員会からしてほしい、もしくは逆にスタートの段階では、ある程度裁量を現場に渡してもらって、このような形で進めていくのがやりやすいというものがありましたら、意見を伺いたいと思います。

第一小学校校長 特に地域の方で何か押しつけられるというような話は入っていません。恐らく、一小だけでなくどこの地区もそうだと思うのですが、学校のために、子どものために、何かをしてあげたいという層は結構いるのだと思います。そこで、うまくマッチングされないケースもあるとは思っているのですが、私たちはそういう方もいろいろな情報を集めて話を伺い、また、学校でもいろいろな力を発揮していただく場をつくるようにやっていけば、何か押しつけられているというようなことにはならないと感じています。

また、教育委員会ですということですが、どうしても特色ある教育活動の一部になりますので、人や金銭的な問題など、もう少し予算があれば幅広く展開できるということもあと思っていますので、もし可能であれば学校としては大変ありがたいと思います。

藤井委員 非常にわかりやすかったです。ありがとうございます。

教育長 貴重な御意見をありがとうございます。この国分寺学は昨年から試行的に進めているところで、ちょうど市制施行 60 周年を1つの契機として本格実施したところです。

国分寺市は御案内のとおり、歴史や文化、自然、様々な魅力にあふれていて、そのことを子どもたちにもいろんな場面で学ばせていきたい、経験させたい、発見させたいという思いが以前からありました。先ほども、国分寺愛を育てるという直線的なものではなく、「国分寺市を愛しなさい」という教育ではなく、様々な学びを通して、きっと子どもたちは国分寺市の魅力に気づいて、国分寺市を大切にしたい、いろいろな貢献をしたいという思いが自然と膨らんでいくと私は考えています。

よって、まずはそれぞれの地域に根差した学びをしてほしいと考えています。ただ、学校教育ですので、教科横断型ということと各教科の目当ては達成をする中で、実施していかなくてはいけないということと、カリキュラム編成はすごく難しいと思っています。教育委員会として、一律のカリキュラムをつくって学校に下ろしていくという方法もありますが、そうではなく、先生方が子どもたちとともにつくり上げていくようなカリキュラムを目指したいという、私としては狙いがあります。

ただ、その中でも、例えば中学校区のいろんな地域に根差した特色がありますので、9年間を見通した学びを展開してほしいとも思っています。一小からも紹介があったように、野川の源流スクールなども活用していただいているところもありますし、国分寺崖線の学習や、恋ヶ窪用水を学習する中で深めていくということもあります。また、学校によっては、ゆでまんじゅうという地域の文化を継承しようと、中学生が小学生に教える活動もしているようです。また併せて、小・中で貫く現代的な課題を学んでいるところもあって、SDGsなどは小・中連携で学習をしているところもあります。

ただ一方で、市内で共通した課題というものも徐々に作り上げていきたいと思っています。既にそれがつくられているのは、ふるさと文化財課が協力して支援している歴史の学びです。実際に武蔵国分寺跡や東山道武蔵路跡を訪問し、学芸員に解説をしていただいて、学びを深めていくこともあります。また、小学校4年生は、浅川清流組合に見学に行つて、環境教育にもつながっています。それが1つの国分寺市のごみ問題や環境問題にもつながっていくということで、これも共通課題になると思っています。

そういったものをどんどん実践を通して積み上げて、いい学びに展開していきたい。そんな願いがありますので、ぜひ、まずは教育委員会内で充実をしてほしいし、先生方の主体的な意欲あふれる活動を期待したいと思っています。そのための予算的なフォローも全力を尽くしていきたいと思っています。

市長 国分寺学というのはまだ確立されたものではありませんが、本市には様々な資源や素材がありますので、子どもたちに発掘していただき、過去から引き継いでいる地域の宝を、我々大人がまた引き継いでいくということだと思えます。その意味で国分寺愛、地域愛というのを深めながら、国分寺学を確立していきたいと考えます。まだ過程としては道半ばですので、これから多くの学校で実践した成果を皆さんで共有しながら進めていければと思います。

それでは、教育委員の皆さまから意見をいただきましたので、ここで教育委員会の報告は一区切りとして、市長部局の説明に移りたいと思います。

国分寺学を推進するための一助となるよう、市制施行60周年のイベントも含めて、国分寺市が実施する様々な取組について紹介します。

まずは防災安全課長から説明をお願いします。

防災安全課長 令和5年度の防災教育の実施についての報告と、今後の展望について説明します。

防災安全課では、各学校からの要望に応じて、職員を学校に派遣して防災教育を実施しています。令和5年度は、中学校は第一中学校、第三中学校、第五中学校、小学校は第十小学校で実施しました。それぞれ目的を持って実施しているところですが、おおむね中学校には、座学を通じて各学校が拠点になる地区防災センターの役割について説明した後、主に段ボールベッド、簡易トイレなどの資機材の組立てを実際に行うといった体験をしていただいています。第十小学校は、地震発生時の被害想定と、その時にとるべき行動を確認し、簡易トイレの組立て等、資機材に触れてもらう機会を設けました。

今後の展望ですが、防災教育は子どもたちの防災意識を高めるとともに、家庭に持ち帰っていただくことで、家族で防災の話をする機会になると考えているため、今後もしっかり取り組んでいきたいと考えています。

また、1月1日に発生した能登半島地震においても、子どもたちが避難所で避難者を勇気づけたり、また、実際に避難所を運営したり、手伝ったりといった姿があったと聞いています。国分寺市が被災した場合にも、そのような行動がとれる子どもたちになってもらえるような取組を進めていきたいと考えています。そして、これまでの防災教育は、主に資機材を扱ってもらうといったことが中心でしたが、令和4年度にアクションカードというものを作りました。このアクションカードは、資料2ページ目の下段に掲示していますが、避難所や地区防災センターを立ち上げるために必要な行動が、このアクションカードに記載されています。例えば、体育館を避難所として使うために体育館にシートを敷くというアクションです。このようなことを子どもたちに参加してもらうことで、単に資機材を扱うだけではなく、その資機材がどうやって使われるのか、また、各学校が災害時にどのような形で使われるのかといったことも学んでもらえる場にしたいと考えています。こちらは、今年度から要望があれば伺って、実践していきたいと考えていますのでよろしくをお願いします。

市長 防災教育というのは、小・中学生は本当に地域の力ですので、そういう意味でそれぞれの身を守ることも必要ですが、地域を守る大きな教育になると思っています。

続いて、文化振興課で「日本の宇宙開発発祥の地」という本市の特徴を生かした事業を展開していますので、文化振興課長から説明をお願いします。

文化振興課長 資料No. 7を御覧ください。『国分寺×宇宙』の更なる推進について、日本の宇宙開発発祥の地、国分寺市をより多くの市民に知っていただき、国分寺市の更なる魅力を感じてもらうことを目的として「国分寺×宇宙」の推進に取り組んでいます。

項番2、事業内容を御覧ください。今年度は三つの事業を予定しています。まず5市共同事業として「子ども体験塾」を8月23日から25日まで実施し、いずみホールでは、子ども宇宙フェスティバルを、c o c o b u n j i プラザでは、ココブンジプラザ鉄道模型広場をそれぞれ開催します。また、来年2月には、「国分寺×宇宙」推進事業として、小惑星K o k u b u n j i 誕生10周年記念講演会をc o c o b u n j i プラザで予定しています。最後にペンシルロケット水平発射実験70周年事業を来年の3月下旬から5月末頃まで実施し、新庁舎でペンシルロケットの展示を行うとともに、令和7年4月12日の国分寺市のペンシルロケット記念日には、いずみホールでセレモニーを行う予定です。

続いて別紙2のチラシを御覧ください。8月23日にはいずみホールで野口聡一宇宙飛行士による講演を予定しています。また、24日は宇宙兄さんズによる講演、25日は森田JAXA名誉教授、阪本国立天文台教授による講演を行います。そのほかに、宇宙工作教室、宇宙服の展示・撮影コーナー、ブロックでつくった未来の宇宙開発展を行うとともに、c o c o b u n j i プラザでは「走らせられるホール内ぐるり一周コース」を作り、鉄道模型を走らせることができますようにします。また、鉄道おもちゃの自由作成コーナー、鉄道開発パネル展示も実施します。

市長 宇宙の関係は国分寺の大きな魅力ですし、これらを生かした形で子どもたちに科学を学んでいただきたいと思います。

それでは最後になりますが、市制施行60周年記念事業全般について、市政戦略室長から説明をお願いします。

市政戦略室長 資料 No. 1－5御覧ください。市政戦略室からは国分寺市市制施行 60 周年記念事業について、7事業を紹介します。

1つ目は市制施行60周年記念事業のロゴマーク、キャッチフレーズ及びまちの魅力発信マンホール蓋デザインの公募と市民投票です。こちらは市制施行60周年を市民の皆様と一緒に盛り上げるために実施したものです。応募状況と採用作品は記載のとおりですが、市内の多くの小学生から応募をいただきました。また、これらの応募作品を、7月20日にリオンホールの前で展示する予定です。

2つ目は気運醸成物品の制作です。バナーフラッグ、横断幕やのぼり旗を駅前などに掲出しています。あわせて、お配りしたロゴマークなどを使ったバッジやPRグッズも制作しています。

3つ目は7月20日にリオンホールを中心として、吹奏楽などのステージイベントやスポーツ体験、スタンプラリーなど、小さなお子様から大人まで楽しめるイベントを開催することについてです。あわせて、コンビのお一人が国分寺市在住の漫才コンビのガクテンソクさんを5組目の観光大使として任命する予定です。チラシに各種イベントの詳細を記載していますので、後ほど御参照いただければと思います。

4つ目は未来への手紙事業です。10年間、自分や大切な方へ宛てた手紙を新幹線の形をしたタイムカプセルに保管し、届ける事業です。

5つ目は記念切手制作事業です。市の魅力満載の切手を7月19日から500シートを

1,490円で、市内郵便局で販売します。

6つ目は市勢要覧作成事業です。「国分寺の現在から未来へ」をテーマとして、写真やイラストを多く使用し、お子様にも見やすい内容とする予定です。

最後の7つ目がデザインマンホールの設置とマップの制作です。こくベジや新幹線をデザインしたマンホールを市内5カ所に設置するとともに、マップを制作します。新幹線を模したデザインのマンホールは、鉄道総研の前に設置する予定です。

市長 国分寺市は市制施行60年となり、還暦を迎える訳ですが、100年時代ですので、100年に向けた新たなスタートを切りたいということで、国分寺学と併せてこの市制施行60周年を連携事業として進めていきたいと思っています。

それでは、委員の皆様から国分寺学と市制施行60周年全般について御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

藤井委員 教科書採択の審議に向けて、中学生が使う教科書について予習をしていたところ、最近の理科の教科書には、全てではないのですが、幾つかの業者のものには教科書の冒頭に「理科室での決まり」という、災害発生時にどう振る舞うかという部分があり、火や特殊な薬剤の使用を想定していると思うのですが、その中の「地震が起きたらどうするか」から、中学1年生の1学期の最初のページがスタートする形になっています。先ほど防災安全課の方のお話を聞き、防災教育をしているときは、学校内で通常の教室であれば皆同じだと思うのですが、理科室にいる場合の防災教育はどうかと思いました。あと、思いついた火を使う教室に家庭科室もありますが、家庭科室は自宅の台所とルールが重なり、理科室はやはり特殊な薬剤を使うこともあり、少し特殊な対応が必要かと思いましたので、学校での防災教育の場所として、例えば防災安全課の職員に指導していただくことは可能なのか。

また、学校での指導の中で、「ここにいる場合は、こういったところに気をつけて」という場所はあるのか。小学生だとそれほどでもないかと思いますが、薬剤を使う点では理科室は結構リスクが高いので、理科室で実験中に何かが起こった場合の指導は必要になると思います。現状と今後の見通しを、防災安全課と出町校長にお伺いできればと思います。

あと、国分寺市の観光大使はガクテンソクさん以外に、既に何人かいるのでしょうか。

第一小学校校長 理科室での決まりについて、中学校の例がありましたが、小学校でも主に高学年の子が理科室を使いますので、地震があったときとか、災害時にはこういった対応をしますというのは、最初の学年初めに話をしています。あと避難訓練の設定は日にちや曜日、時間も違いますので、ちょうど理科に当たっていることもあります。また、休み時間ということもありますので、あらゆる場面での避難を想定しています。

併せて、第十小学校が、防災に関しては全国大会を開いたり、非常にたくさんの例示を持っています。通常、避難訓練は訓練ということもあり、特にケガ人もなく、どこも燃えていないという設定をするのですが、先日紹介いただいた例示では、事前に封筒の中にいろんな設定が入れてあり、それを担任が持って教室に行き、いざ避難訓練というときに初めて開けて、ケガ人が何人いるとか、どこが燃えてどこの階段が使えないという、そんな設定であらゆる場面に対応していかなくてはいけないという訓練をしていますので、理科室についてもしっかりと指導をしていくことになっています。

防災安全課長 防災安全課は、市民の皆さんに出前講座で、「こういった場面で地震が発生したら、皆さんどう動きますか」というような話をしています。

例えば、エレベーターに乗っていた時は、デパートにいた時は、地下街にいた時はど

うしたらいいかなどです。今までの防災教育の中では、子どもたちに向けて、学校にいる時の話をしたことはありませんが、各学校と事前打合せの中で調整した上で、私たちからお話しできることはしっかり伝えていきたいと思います。

市政戦略室長 観光大使についてですが、最初に任命されたのが、平成30年4月の元プロ野球選手の木田優夫さんです。続いて、ラジオパーソナリティの土屋礼央さん、3件目がプロピアニストの福間洸太郎さん、4件目が東京経済大学の学生たちで結成した音楽グループ荒川ケンタウロスさんです。

大木教育長職務代理者 防災教育に関しては、希望があった学校に出前講座を実施していると伺いましたが、先ほどの国分寺学ともある意味共通するのですが、私はこの防災教育は、全小・中学校においてぜひ実施していただきたいと思っています。今のお話にもありましたように、まだ子どもたちですので、自分たちが守られる存在でもありますが、特に小学校高学年、あるいは中学生に関しては、自分たちが市民の1人として、どのようにその状況で役に立てるかという意識を持ってほしいと考えています。

先ほどの国分寺学に関しては、まだ昨年度から始まったということもあり、先ほど6年生が武蔵国分寺跡の校外学習をしていることは伺いましたが、例えばこのような防災教育や非常に重要なことについては、ぜひ全学校に共通で学んでほしいと考えています。共通で学んだ上で、さらに各学校で地域の特色などでそれぞれの独自性を出していただけたらいいと思いました。子どもたちが将来国分寺市で成長していく中で重要な内容だと思いますので、ぜひ今後、検討いただければと思いました。

学校指導課長 教育委員会としても、防災教育は非常に重要な視点であり、また、子どもたちが身につけるべき重要な力であると認識しており、今回資料として御用意した小・中学校のカリキュラムにも、「小学校防災教育」という名称では入ってはいませんが、小学校は消防署の見学や、そうしたところからお話を伺ったりということで単元を入れていたり、中学校は「防災教育」として、国分寺市の防災安全課との関わりや、2年生ではHUG（地域の方との交流）を防災教育として取り上げています。

引き続きこれは大事な視点ということで、しっかり充実していこうと思っています。

教育長 非常に重要な課題だと思うので、こういったものを共通カリキュラムとして設定するという可能性はどうでしょうか。

学校指導課長 小学3年生の消防署見学等から始まり、実際に学校がやっているところがありますので、そこは共通化するのかどうか。例えば、中学校によっては消防署の方を呼んだり、それぞれ実情に応じて行っていますので、カリキュラムについてこれからも話し合いを行っていききたいと思います。

教育長 ぜひそのカリキュラムをつくる際には、防災安全課の協力をいただく中でつくっていただければいいと思います。また、全市を挙げて、そういうカリキュラムを編成していけたらと思います。

武内委員 私も防災教育について質問します。非常に実践的な内容を実施していると思いますが、段ボールベッドや簡易トイレは、市内小・中学校にどの程度備蓄されているのでしょうか。都立高校の防災備蓄倉庫には、全校生徒3日分の非常食及び水が備蓄されているのですが、市内の小・中学校はどうなっているのか、教えていただければと思います。

防災安全課長 まず、段ボールベッドは備蓄としてはありません。どうしても備蓄するスペースに制限があるため、災害協定を結んでいる企業等から調達する形になります。一方で、各避難所に到着した際にスムーズに組立てられるようにしておくことは必要ですの

で、訓練用に各学校に1台ずつ段ボールベッドが置いてあります。

簡易トイレは、手元に資料がなく申し訳ありませんが、各学校には20基程度は配備されています。それ以外に、子どもたちが使用している洋式トイレにビニール袋をかぶせる形でトイレとして使うことも想定していますので、それも含めると相当数が学校ごとに備蓄されている状況です。

食糧等は、現在、市民の皆さんの2日分に当たる食糧を、各学校だけではなく、例えば大型の市立スポーツセンターの倉庫等を活用しながら備蓄しています。また、飲料水についても約9万リットルを備蓄目標とし、おおむね目標は達成している状況です。

辻委員 私も防災についてお尋ねします。防災安全課の発表の中でアクションカードの説明があり、避難所運営の際に、様々な人が様々なアイデアを出して混乱するようなことを防ぐために非常に期待できるカードだと思いました。具体的には各学校に1セットあり、それを「はい、このカード」「このカード」と配って、使用するものなのでしょうか。

防災安全課長 今日、実物をお持ちしたのですが、枚数はこういった非常に多いものになります。今おっしゃったとおり、まず、このカードを管理する者がいます。これは職員を想定しています。ここから先の、実際に動いていただくのは避難されている方を想定しています。避難者の方にこのカードを1枚渡して、「この倉庫からブルーシートを出して、この場所に設置をして、そこにケガ人を誘導してください」や、「ここから避難者の方をグラウンドに安全に誘導してください」などがカードに書いてあります。各学校は、建物の形状も、鍵の保管場所も違いますので、全校オリジナルな内容となります。こちらが各学校に1セットずつ防災倉庫に保管してあります。

辻委員 このカードがあると、避難所の運営が、設営から運営まで非常にスムーズになってとてもよいと思います。受け取った人が「何でしょう、これ」とならないように、こういうものを受け取ったら、私はこのミッションをして、終わったら返してとすることでもうまく進んでいくことをわかっていただけのように、アクションカードの存在をどんどん積極的にアピールしていただけたらいいと思いました。

思い返すと、自分が小学生や中学生の頃は、自分が通っている学校が避難所になることは考えたこともなかったのですが、今の子どもたちは地震や水害など、大きな災害が毎年のように発生していますので、自分の学校も避難所になるかもしれないという気持ちを持って通っている子が多いのではないのでしょうか。いざというときには、自らの安全を守ることを最優先にしつつ、ぜひ地域住民の共助の輪に入って力を発揮してもらいたいと思います。そして、自分たちの学校は地域の人たちの居場所なんだ、自分たちもその仲間なんだという気持ちを持ってもらうことを狙いとして防災教育を行っていただくと、大変立派な国分寺学になると思いましたので、ぜひ積極的に進めていただけたらいいと思います。

市長 このアクションカードは学校に1つです。防災倉庫を開け、その後の作業を誰にお願いするのかなど、どのような役割分担になっているのですか。

防災安全課長 各学校の近隣に住む職員を充てています。特に休日・夜間は最初に到着するであろうと想定していますので、その職員が倉庫から取り出して行動する形です。

市長 では避難所運営は、基本的にはその職員が最初に指示をするということですね。

防災安全課長 はい。まずは安全に避難者の方を体育館まで誘導するところが大きなミッションになっていますので、混乱が落ち着けば、そこで生活するという次のフェーズに移っていきます。生活するフェーズについては、これから作成をするところです。まず

は発災初期の混乱を防止するための措置ということで導入しています。

市長 様々な貴重な御意見をいただきありがとうございます。市長部局、教育委員会、そして地域がより連携し合って、未来の国分寺市を担う子どもたちの成長を支えていかなければいけないと思っています。より一層、発展した施策を行っていきたいと思います。

(2) (次期) 国分寺市教育に関する大綱の基本的考え方について

市長 続いて、2つ目の協議事項の第3期国分寺市教育に関する大綱の策定についてです。平成27年4月1日に施行された改正地教行法第1条の3第1項により、地方公共団体の長が教育に関する大綱を策定することが定められ、国分寺市においても教育に関する大綱を作成しました。

今年度は第2期国分寺市教育に関する大綱の最終年度になり、引き続き令和7年度から令和14年度までの8年間の第3期国分寺市教育に関する大綱を策定したいと考えていますので、本日は大綱策定に向けて基本的な考え方をお示ししたいと思います。この基本的考え方を基に大綱の案を策定し、第2回総合教育会議で協議の上、次期大綱を策定したいと考えています。

それでは政策経営課長から説明をお願いします。

政策経営課長 資料No.2を御覧ください。現行の第2期国分寺市教育に関する大綱が今年度をもって終了となるため、令和7年度以降の新たな教育大綱の策定について、その考え方をお示しするものです。

市長の説明と重なるところがありますが、まず教育大綱の説明です。資料1ページの冒頭にありますとおり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、地方公共団体の長が、総合教育会議等の協議の上で大綱を定めることとしています。また、国の通知では教育振興計画、本市の場合は教育ビジョンが該当しますが、こちらを定めている場合には、この計画をもって大綱に代えることができるとしており、内容については詳細な施策まで定めることが求められておらず、計画期間等についても法律上特段定めがありません。項番1のこれまでの経過にありますとおり、本市においては、第1期教育大綱では、第1期教育ビジョンと文化振興計画を包含した形で策定し、第2期においては、さらにスポーツ推進計画を含んだ内容で策定を行ってまいりました。

続いて、2ページ目を御覧ください。第3期はこれまでの考え方を踏襲し、令和7年度から始まる第3次国分寺市教育ビジョン、第3次国分寺市文化振興計画、更には第2次国分寺市スポーツ振興計画を踏まえた大綱を策定していきたいと考えています。

計画期間については、ここで3つの計画が令和7年度から令和14年度までの8年間でそろそろこととなりますので、教育大綱に関しても同様に8年間とし、その間における各計画の改訂状況を踏まえ、必要な見直しを行う形にしたいと考えています。

項番3の策定体制については、市長部局内の調整等を政策経営課が、原案の作成を教育総務課がそれぞれ担い、互いに連携を図りながら作業を進めてまいりたいと考えています。

最後にスケジュールになりますが、項番4にありますとおり、来年の3月上旬までに3つの計画の策定作業が完了する予定となっていますので、その内容を受けて、3月の総合教育会議で再度協議・決定いただき、年度末の庁議にて報告してまいりたいと考えています。

市長 説明が終わりました。御質問がある方はぜひお願いします。

具体的には3月の総合教育会議で具体的なところを詰めていくのですが、今日は大綱の基本的な考え方をお示ししました。

教育長 第3次の教育ビジョンは、今、策定に向けて教育委員会でも準備を進めているところですが、逐次教育委員会定例会で報告し、進捗状況をお伝えしているところです。そのほかの文化振興計画、スポーツ推進計画について、途中経過で、教育委員に報告をされる予定はありますでしょうか。

政策経営課長 現時点では決まっていますが、確かに3月のこの場で1回提出して議論いただくというのは少し厳しいと思いますので、適宜、各計画の進捗状況は、教育総務課とも調整しながら事前にお示しする形をとっていきたいと思っています。

教育長 よろしくをお願いします。

大木教育長職務代理者 今までの第2期の教育大綱においても、第2次の国分寺市教育ビジョンと第2次国分寺市文化振興計画に基づいたものに、更にスポーツ振興計画も加えたということで、今回もそれを踏まえた大綱を策定するということですが、「踏まえた」というと、どのような形で策定されるとお考えでしょうか。

政策経営課長 現在の大綱も、各計画の施策の柱をまとめた形にして、そこに簡単な説明をつけているような状況です。基本的には構成は同じような形になると思いますが、各計画が今年度同時に進むということですので、そこはお互いに齟齬がないような形に調整しながら進めていきたいと考えています。

大木教育長職務代理者 結局3つ別々にあるものを1つにまとめるときに、今、説明がありましたように、齟齬がないようにするのはもちろんだと思いますが、例えば表現や文言などに関しても、ぜひ統一して、最終的な案をお作りいただきたいと思っています。

それぞれが自分たちの専門として、担当でまとめたものをさらに一緒にしますと、いろいろなものを拝見してしましても、どうしても寄せ集めの印象を受けてしまうという危険性があると思います。国分寺市としての教育大綱というからには、それぞれの縦割り行政的なイメージではなく、みんな一丸となつての教育大綱なのだということがわかるように、慎重かつ確実にお進めいただきたいと思って伺わせていただきました。

政策経営課長 今まで別々であった計画期間も今回からそろいますし、策定作業を並行して進めている状況ですので、いただいた意見を踏まえ、しっかりと情報共有しながら、統一感を持った形で策定できるように調整を進めていきたいと思います。

市長 来年、最終的にはこの3つの計画と大綱を作るのですが、スポーツ振興課長と文化振興課長から進捗状況について説明してください。

スポーツ振興課長 現在、今年度の作業をしている段階で、第3回市議会定例会に骨子案をお示ししようと考えています。また、12月にはパブリック・コメントをすることを予定しています。

文化振興計画も同じような形で進んでいます。

市長 先ほど大木教育長職務代理者からもお話がありましたが、全体の調整は政策経営課長にお願いし、特に市長部局と教育委員会の統一感を持ってもらいたいと思いますのでよろしくお願いします。

本日は教育に関する大綱についても御議論いただきました。様々な御意見をいただきありがとうございます。第2回総合教育会議でも協議をお願いしたいと思います。

本日頂戴した貴重な意見や課題などから、今後の方向性について確認することができました。市長部局と教育委員会が連携・協働していくためにも、引き続き担当課での話し

合いを重ねていく必要があると思います。今後どうぞよろしく申し上げます。

3 その他

なし

4 閉会

市長 それでは、令和6年度第1回総合教育会議を閉会します。